

実施年度	実施主体	対象獣種
R 8 ～ R 9	飛騨市鳥獣被害対策協議会	シカ

現状・課題
集落周辺の林縁部を中心に二ホンジカによる農作物被害が継続的に発生しており、特に特定の個体又は親子の群れによる反復的な侵入・加害が繰り返し確認されているものの、従来はイノシシ被害への対応が主であったことから、従来の捕獲対策では、シカの出没状況や行動特性の把握が十分ではなく、捕獲効率が低下している状況にある。

事業概要
加害個体の行動特性を踏まえた捕獲体制の構築や再現性のあるICTを活用した捕獲モデル構築のため、 ・IoT自動撮影カメラで取得した画像から獣種をAIが自動判定するシステムと、比較的安価な遠隔捕獲システムを組み合わせ、出沒状況と被害の関係性を分析するほか、 ・出沒状況の可視化及び遠隔操作による加害個体の効率的な捕獲を実施する。
活用機器
※交付金活用外の機器を含む
・IoT 自動撮影カメラ ・捕獲檻 ・遠隔捕獲システム
モデル地区の普及範囲
飛騨市内他地区へ横展開。県と連携し、他市町村へも情報共有・普及

【イメージ】

シカの出沒監視と遠隔捕獲

HykeWorks AI × HuntBot

1 撮影

2 AI判定

3 通知

4 遠隔操作

5 運用効果